
暖かい涙

幸祈子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暖かい涙

【Nコード】

N4187B

【作者名】

幸祈子

【あらすじ】

道を踏み外した姉と、真面目に生きてきた妹。気怠い毎日、訳の分からない寂しき、何かに対する焦り。

姉妹

真冬の真夜中に窓際で吸う煙草は、私の頭を麻痺させる。
寒くて、カタカタ震える手。

それでも何となく次の一本をまた取り出す。
真つ暗な部屋でライターで火を点けると、そこだけが暖かそうな明
りが灯る。

千春は、その灯を見つめながら、今日久しぶりに会った妹の貴子の
ことを思い出していた。

『どしたの？深刻そうな顔してるね。』

『ん…。』

お姉ちゃん、あたしのこと 軽蔑しない？』

『しないよ。なに？』

貴子の顔が一気に曇った。

『……………妊娠した…。』

絶句した。

貴子は千春の3つ下。
17歳だ。

『は…？』

まだ高校生。
しかも彼氏の存在も知らなかった。

『何で…？誰の…？』

それしか言葉が出てこない。

ひとつ、またひとつ。

貴子の顔に、涙の筋ができていく。

結局、貴子は質問には答えなかった。

「ただいまあ」

誰も居ない部屋に、ポツリと呟く。

千春は高校を2年の夏に辞めた。それからバイトを転々とし、家を出た。

鞆をソファの隅に投げ、冷蔵庫から酒を取り出す。

部屋着に着替え、化粧を落としながらテレビをつける。

いつもの千春の夜である。

テレビでは楽しそうなバラエティ。

ゲラゲラと出演者が爆笑している。

「くだらない」

煙草を、一本。

「明日は出勤しようかな……」

自由出勤制は、風俗店の特権である。

ふと、貴子のことか過った。

千春は煙草を消した。
貴子の残像をもみ消す様に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4187b/>

暖かい涙

2010年11月11日19時35分発行